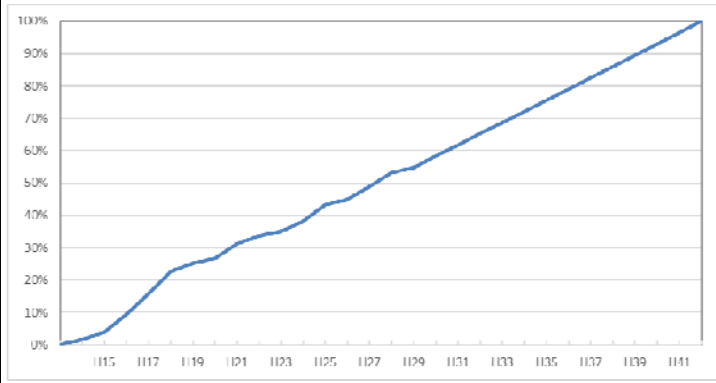


平成 29 年度再評価対象事業箇所 (再評価実施後、一定期間(5年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)  
 (対象:平成 24 年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	CO2削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
	再評価 時点 H24	松浦川 河川整備交付金 事業(広域河川 改修事業)	○本事業区間は、平成 2 年 7 月の集中豪雨による浸水被害を始めとして、たびたび洪水被害に見舞われている。このため、河道改修(河道拡幅、築堤および横断構造物改築等)を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 ○河道計画の概要 ・計画流量 800m <sup>3</sup> /s ・計画治水安全度 1/30 ・流域面積 83.8km <sup>2</sup>	全体事業費:C=51.0 億円 改修延長 松浦川:L=6,200m 鳥海川:L=1,000m 工期:H14~H35 事業内容:築堤・掘削・護岸 橋梁8基 堰 1基 サイフォン2基 樋門・樋管11基	川古川合流点上流から真西橋上流までの約 3,500mの暫々堤防および暫々掘削を完了している。 (H23末進捗率 42%) (年平均進捗率4.2%)  (H24以降工事) 掘削・築堤・護岸 橋梁6基、堰1基 樋門・樋管6基 サイフォン1基	(過去の災害実績) ・平成2年7月 時間最大雨量 61mm 浸水戸数 床上13戸 床下93戸 ・平成21年7月 時間最大雨量 48mm 道路・農地などが冠水  (地域の状況) 流域にある武雄市の人口の推移は若干の減少傾向、一方、高齢化率は上昇傾向にある。	事業採択時と比較して大きな変化の要因は見られない。  B/C=1.48	・河道掘削土を近隣の道路盛土工事(R498若木BP、県道武雄伊万里線)に有効活用する。	事業採択後 10年が経過	継続
	現時点 H29	松浦川 河川整備交付金 事業(広域河川 改修事業)	○本事業区間は、平成 2 年 7 月の集中豪雨による浸水被害を始めとして、たびたび洪水被害に見舞われている。このため、河道改修(河道拡幅、築堤および横断構造物改築等)を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 ○河道計画の概要 ・計画流量 800m <sup>3</sup> /s ・計画治水安全度 1/30 ・流域面積 83.8km <sup>2</sup>	前回評価時より全体事業費を増額した。  全体事業費:C=60.7 億円 改修延長 松浦川:L=6,200m 鳥海川:L=1,000m 工期:H14~H42 事業内容:築堤・掘削・護岸 橋梁8基 堰 1基 サイフォン2基 樋門・樋管13基	萩ノ尾堰から真西橋までの約3,800mの暫定築堤および暫定掘削を進めている。 (H28末進捗率 53%) (年平均進捗率3.5%)  (H29以降工事) 掘削・築堤・護岸 橋梁6基、堰1基 樋門・樋管5基 サイフォン1基	(近年の災害実績) ・平成28年6月 最大日雨量 275mm 時間最大雨量 37mm 道路・農地などが冠水  (地域の状況) 氾濫区域内の土地利用について、平成24年度以降の大規模開発や宅地造成は確認されない。 武雄市全体の人口は減少傾向である。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算出した。  (B/C) = 1.31	・再生材や現地発生材の利用を図る。	再評価実施後 5年が経過	平成2年等の洪水被害を軽減するために、河道拡幅、築堤および横断構造物改築等を行い、治水安全度を向上させる。これにより、地域住民の安全・安心の暮らしに寄与できるため、当事業の継続が必要である。
	理由等			・堰の詳細設計による事業費の増 ・掘削土の公共工事への流用ができず、残土処分場へ搬出したことによる事業費の増 ・下流の直轄区間の進捗が遅れたこと、また、用地買収難航箇所の対応による工期延長	進捗率 		前回再評価時と比較し、事業完了年度の延長及び事業費増によりCが増大し費用対効果の減となった。			